

行政視察報告書

委員会名	教育民生委員会
派遣委員	委員長 芝田 英範 副委員長 平川 幸司 委員 伊藤 淳 委員 広田 精治 委員 匹田 郁 委員 吉岡 勲
日 程	令和6年10月9日（水）
視 察 先	岐阜県北方町
調査項目	学校の再編について

1. 調査目的

北方町では、教育力の向上と学校運営の効率化を図るため、令和5年4月に町内にあった小学校3校、中学校1校を義務教育学校2校に再編しています。白杵市教育委員会においても、「学校教育の質の充実」と適正な「教育環境の創出」を目指し、将来を展望した公立学校のあり方を「公立学校のあり方に関する基本計画」として、現在検討しているため、学校再編における課題や経緯、開校後の課題などをご教授いただき、今後の白杵市における検討がより充実なものとなるよう調査・研究を行いました。

2. 調査内容

（1）視察先の概要

北方町は、岐阜県の南西部、濃尾平野の北部に位置し、町の中には一級河川の天王川、糸貫川と普通河川の長谷川等の河川が南北に流れています。東西に1.85km、南北4.2kmの面積5.18km²の面積、人口は、令和6年10月1日、現在18,530人と、岐阜市中心部まで20分以内、名古屋市まで60分内で到達することができる、立地条件から中京圏の住宅都市に位置付けられ、人口密度が3,577人/km²と岐阜県内で1位となっています。

また、明治22年の町村制の実施からスタートして以来、約130年を経過し、国の指定重要文化財として円鏡寺やその門前町が残る、古き伝統に育まれた歴史や文化の町です。

（2）調査結果

北方町は、校舎の老朽化と今後必要となる修繕費等から学校運営の効率化を図るため、学校の再編の検討を開始し、再編の検討に当たって、教育力の向上を図るための方法として、幼保小中一貫教育の実現を目指したとのことでした。平成29年に再編方針を示し検討を開始し、令和5年3月までの幼稚園5園、小学校3校、中学校1校の体制を、令和5年4月から義務教育学校（小中一貫校）2校（北学園・南学園）と、令和9年4月までにこども園3園（町立1園、民間2園）に再編しました。なお、町立こども園は、北学園と同一敷地にあるため、15歳までずっと同じ場所に通い続け、「0歳から15歳まで切れ目なく着実に力を延ばす」という教育方針を具現化しています。

再編に至る経緯については、構想発表、基本計画の作成、その後4年間の準備委員会において、各地区での会議、毎月の広報連載等、協議事項を透明化し、説明し議論を重ね理解を求めたとのことでした。なお、北方町は、面積が小さいため通学の距離や方法については、課題がなく、どちらの義務教育学校も徒歩通学が可能な児童生徒のみとのことでした。

また、部活動の地域移行についても、北方学園クラブとして「町・学校」「保護者」「地域」の3者が共同運営を行っており、順調に運用されていました。

再編後、1年を経過し、義務教育学校9年間になったことへの戸惑いなど、児童生徒、教職員とそれぞれに課題があるが、逐次その対応に取り組んでいました。

令和6年9月25日に実施した児童生徒アンケートにおいて、新しい学園（義務教育学校）になってどう思うかについては、『とても良かった』又は『よかった』と回答した児童生徒が9割を超え、その他の項目についても肯定的な意見が多く、また、教職員、教育委員会の実感として、より多くの世代など様々な交流を通して、子どもたちの表情が穏やかになっているように感じているとのことでした。

3. 委員会の所感

学校再編に至る経緯や要因は、様々ではあるが、北方町の町長、教育長の再編構想を示し、将来を見据え、「住民」、「関係者」、「地域」とともに考えて進め、全町的な取り組みとしたことが重要だと感じていました。検討の際の情報を全てオープンにして、広報し進捗状況を知らせ、各種会議に出席、真摯に課題に向き合い、解決してく、その姿勢や信念に感銘を受けました。

ただ、町の面積から、全児童生徒が徒歩で通学が可能で、本市では大きな課題となる、遠距離通学のためのスクールバスやタクシーなどを考慮の必要がないため、学校再編には有利な状況であったと感じました。

学校再編が成功していることは、児童生徒のアンケートの結果が示すとおりでもあるが、視察の際にすれ違う子どもたちの元気な笑顔からも感じられた。0歳から15歳までの子どもたちが1つの施設で学ぶことのすばらしさを感じました。

4. 視察状況

